に印象を深めたことはありませんでした。各自が其の發芽を見て何共形容の出來ぬ嬉びを表現し中には大きな聲をあげて喜んだものもありました。其後數回の手入をして三月十四日花盛りに其の成長の有樣を見せましたが、幼兒の喜びは又一段で、自然科的取扱の有效な成績を見ることが出來ました。次で五月二十八日には畑に行きて豆ちぎりをなし、翌二十九日は其のかはむきをさせましたが、其の作業中には彼等は色々のことを學びました。中には想像を廻し舟が出來たなど言つては、ボートの歌を唱つたり、馬に作らうといつて脚を附けなどして創造生活を爲す樣は何ともいはれないでした。

■その日のお晝に豆の御飯に仕上げて園兒一同に舌鼓をうたせ、幼稚園出身の第一年生や小學校の先生方をお客に招いて、家庭社會の實際生活を其のまゝに相共に樂しい集りをしましたが、一つの仕事から凡ての方面の教育が系統的に有機的に行はれて效果の大なることを認めました。

○えんにち

……虫賣の店の隣に眼鏡懸けたぐれんぼ顏の老人が三體千字文の講釋に人を集めてゐる。其隣では「ケムデルパイプ」とハイカラな看板かけて一袋二錢の駄菓子で子供達に大もて。「火をつけてはいけない煙草、かうして口で吸ふと煙が出る。」吸つて見せると生意氣ざかりの腕白童がしきりに買つて行く。

「生さらし飴」の幟のひらめく燈の下には「二錢」「三錢」のお客がたえまなく詰めかける。ふと母さんに手をひかれた四つ位の男の子が立止まる。飴屋の婆さん得意氣に飴を切りながら「坊ちやん、明日からまた上りますよ。今日は一錢に四つだが明日から一錢に三つ」この子母さんの袖をひいて「お母さん、おがるつて何の事？」母さんは默つてゐたがやがて「さあ、坊や、向ふの方へ行つて見ませう」と。

「母ちやん、チン〳〵（自轉車の玩具）買つてよう!!」瀬戸物屋の前で茶碗の鑑定に餘念のないおかみさんに五つ位の子が聲を涸してねだつてゐる。「ねえ母ちやん!!」かう云ひつゞけて、向ひの玩具店を見入りながら「チン〳〵」と口眞似してゐる。買物がすむとそのおかみさんは「あんな物、繁ちやんには駄目よ、すぐに壞してしまふぢやないか、お前には食べるものの方がいゝよ」とひきづる樣にこの子をつれて人込みの中に消えた。

風鈴屋、金魚屋、植木屋その店にたつ浴衣姿のお客、本當に夏らしい、本當に涼しそうである。（七月十四日）